

水槽の扱い方

生き物を飼育する

関連単元

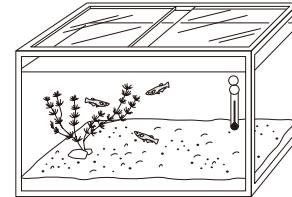
2. メダカのたんじょう

1

飼育するための準備

- ・水槽の選択

- ⇒ ガラス製かプラスチック製のものを用いる。
⇒ ほこりが入らないようにふたがあるとよい。ふたがないと水が蒸発して減りやすいし、トンボなどが入り込んで卵を産むこともある。



- ・水槽のセット

- ⇒ 水槽の底には直径5~8mmの小石を3~4cmの厚さで敷き詰める。

- ⇒ 水草を入れる。

- ⇒ 水道水を用いるときは、塩素を抜き、温度をそろえるため、バケツなどにくみ置きし、1日ほど日光に当てたものを利用する。時間がなくてすぐに水道水を利用したいときには、市販の塩素除去剤を加えて中和させるとよい。

- ・ろ過装置が上方ろ過であれば、水槽の水を汲み上げマットでろ過し、水槽に戻す方式なので、ろ過しながら酸素の補給ができる。

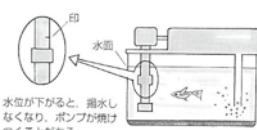
- ・水槽に魚を移すときは、魚だけを移すと弱りやすいので、ポリ袋に魚を入れたままの状態でポリ袋ごと10~15分ぐらい水槽につけてから放すとよい。

- ・置く場所は日光が直接当たらない明るいところで、コンセントの近くがよい。ろ過装置の電源コードが長くなると引っかけやすくなり、危険である。

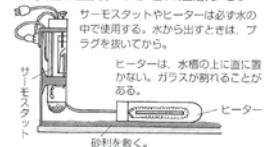
- ・ヒーターを使う場合はやけどに留意して扱う。また、ヒーターが水槽に触れるとガラスが割れことがある。

- ・水位の下がりすぎに注意する。(ポンプが空回りし、焼け付き・出火につながる)

水槽内の水位に気をつける。



水温の上昇、やけどの注意する。



2

生き物の世話をしかた

- ・餌の与え方

- ⇒ 1日に1回、決まった時間に、食べ残らないくらいの量を与える。

- ⇒ 食べ残って沈んだ餌は水を汚す元になるのでスポットで取り除く。

- ・魚の数は水槽の大きさに合わせる。たくさん入れ過ぎると、酸素不足や病気になって死んでしまう恐れがある。

【目安】Sサイズ(30cm)→5匹、Mサイズ(40cm)→8匹、

Lサイズ(50cm)→10匹、(60cm)→25匹

3

水槽の手入れのしかた

- ・ガラスの汚れは、布でふきとったり市販のコケ落としを使ってきれいにするとよい。

- ・セットした水槽はできるだけ移動させない。どうしても移動が必要なときは、水をぬいてから移動させる。

- ⇒ 水を入れたまま移動させると、ガラスを割ったり、ガラスの継ぎ目がズレて水漏れが起きたりするので、水を入れたままの移動は絶対にしない。

- ・水換えは、水が白く濁る、濃い緑色になる、水面に泡が多数浮く、魚が口を水面にあげるなどの状態になったときに行う。

- ⇒ 入れ換える量：全体の1/3~1/2程度の水を新しい水と入れ換える。

- ・水槽の修理

- ⇒ 水漏れは、シリコン系の充填剤で補修できる。

- ・メダカは非常に神経質な魚で、過度の水替えはストレスを与えることにつながる。

- ・感電防止のため掃除をするときはエアポンプとヒーターの電源を切る。

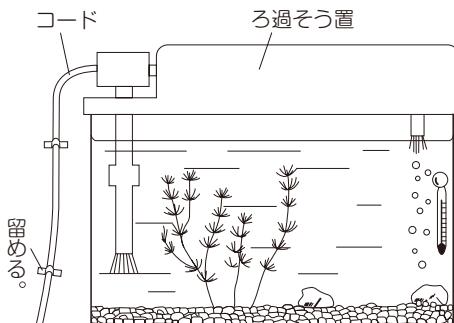
5年

水そうのあつかい方

● 生き物をかう

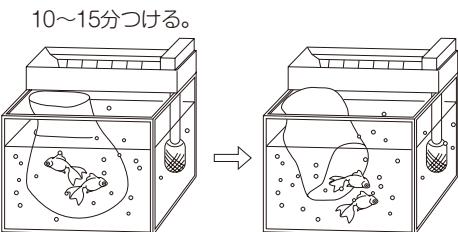
1 生き物(魚など)をかう準備

- 水そうは、日光の直接当たらない明るいところに置く。
- ろ過そう置のコードは引っかかるないようにきちんと止めておく。
- 水道水を用いるときは、くみ置きしたもの(1日ほど日光に当てておく)を使う。カルキぬきを使っててもよい。
- 底には、じゃりや土をしきつめる。
- オオカナダモ・クロモやホテイアオイなどの水草を入れるとよい。



2 生き物の世話のしかた

- 魚を入れ過ぎない。
- 魚を水そうに移すときは、ポリ袋に入れたまま、10~15分ぐらい水そうにつけた後、移す。
- えさは食べ残らない程度あたえる。
⇒ 底にえさがしづんで残っているのは、入れ過ぎである。
- 毎日魚を観察し、病気になっていないか死んでいないかを調べる。
- 水が減ってポンプが焼け付かないように気をつける。

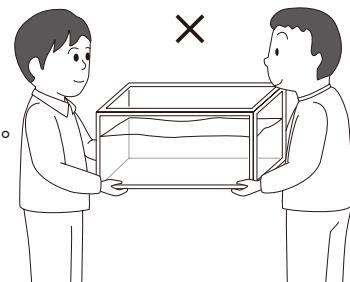
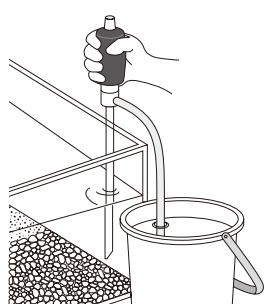


3 水そうの手入れ

- 水そうはできるだけ移動させない。どうしても移動が必要なときは、水をぬいてから移動させる。

⇒ 水を入れたまま移動させると、ガラスがわれたり、水もれが起きたりする。

- 水がにごったり、あわがういたり、魚が口をぱくぱくさせたら水を入れかえる。
⇒ かかる水の量は、1/3~1/2程度にする。
- ポンプを使うと水の入れかえが簡単にできる。ポンプのすい口にフィルターを付けておくと、じゃりをすいこまなくてよい。



- ガラスのよごれは、布などでふきとる。
- エアポンプとヒーターの電げんは必ず切ってから水をぬく。
- ヒーターでやけどをしないように気をつける。